

科目名	社会哲学特殊研究	担当者	イシハマ 石浜 ヒロミチ 弘道	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>今日の激変する社会の構造を分析し、そのあるべき姿を探求することは私たちの喫緊の課題であろう。そこで学習者にとって今日何が現代社会の根本的な問題なのか、どうしたらそれを自分自身の力で解決することができるのか、日本人として何ができるのか。これらを社会哲学のテキストを読み解くことを通して、理論的に考察し、その社会倫理的な実践に向かう視点を養う。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 学習者が今日の社会の諸問題を哲学者の指摘を参考にしつつ深く理解することで、多様な国家や民族そして文化の存在価値を踏まえて共生というあるべき社会の姿を論理的に修得する。 【行動目標 (SB0s)】 学習者は社会のあるべき姿を理解する過程で、まず既存の社会が抱える諸問題を客観的に記述する(知識・解釈)。そのために世界の多くの文化、民族の多様な価値を哲学的に深く考察し、そこから現実に行っている諸問題を列挙し、さらに解決を指摘する(知識・問題解決)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】 ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等を分析・読解しレポートを作成する。 【学修方略 (LS) と学修時間】 ・学習者は今日の社会の諸問題に意識的に取り組み、テキストにあるように哲学者が論究する問題について、それらが具体的にどのようなものかを自ら調べ、さらにその問題を掘り下げ解決を目指して行動に移すことができる。たとえば、マス・メディア等でそれらの問題を把握することにもテキスト理解と同様の時間を使う(自習)【15時間/レポート1本】。 ・さらに自分の近辺でも同様の問題があるかどうか調べる。可能であれば自らもその問題の解決に参加(自主研究)【10時間/レポート1本】。 ・1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに5時間以上(レポート作成)【10時間/レポート1本】。 ・manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に10時間以上が目安(ディベート)【10時間/レポート1本】。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)は7月末、課題(2)は8月末を目安に提出する。いずれの課題も学事暦で定められた日までに提出しなければならないが、初稿等はそれより早めに提出すること。 後期：教材2のレポート課題(1)は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目安に提出する。いずれの課題も学事暦で定められた日までに提出しなければならないが、初稿等はそれより早めに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し、課題ごとのレポートとしての的確に書かれていること
	観察記録	20%	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること
履修者への要望	<p>レポートの課題に関連したテキストの部分のみでなく全体を通してじっくりと読み理解すること、さらにそこで述べられている諸問題を身近な問題として具体的に取り組むことが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 小坂国継、他編 教材名： 『概説 現代の哲学・思想』（ミネルヴァ書房，2012年） ISBN978-4-623-06110-5 C3010 3500円+税
	近現代の社会思想の種々の潮流を学ぶことを通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかが概説的に述べられている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから現代社会の諸問題の哲学的な分析と解決を得ることができる。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2冊、2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円+税 加茂直樹『社会哲学を学ぶ人のために』（世界思想社、2001年）ISBN:4-7907-0876-4、2000円+税 さらに哲学者について詳しく知るためには、清水書院<人と思想シリーズ>の各哲学者の入門書が適切。
履修上のポイント	テキストは内容上2部構成となっている。その1部は近現代の哲学の流れがコンパクトに紹介されているので、自分が選んだ課題の章とそれが属する各部を通読することで問題の立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている諸問題について、上記の参考図書で確認することが思想内容を的確に理解するうえで望ましい。
レポート課題 1	テキストの第1部から自分が興味があると思う章を選び、要約しなさい。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること
レポート課題 2	テキストの第1部から自分が興味があると思う章を選び、要約しなさい（ただし課題1と異なるもの）。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 小坂国継、他編 教材名： 『概説 現代の哲学・思想』（ミネルヴァ書房，2012年） ISBN978-4-623-06110-5 C3010 3500円+税
	近現代の社会思想の種々の潮流を学ぶことを通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかが概説的に述べられている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから現代社会の諸問題の哲学的な分析と解決を得ることができる。
参考図書	ロールズ『正義論』紀伊國屋書店、小松奈美子『医療倫理の扉』北樹出版、中谷常二『ビジネス倫理学』晃洋書房、小坂国継『環境倫理学ノート』ミネルヴァ書房、高橋準『ジェンダー学への道案内』北樹出版、金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、渡辺学『ユングにおける心と体験世界』春秋社、坂本百大『科学哲学』北樹出版
履修上のポイント	テキストは内容上2部構成となっているので、ここでは第2部の中で自分が選んだ課題の章とそれが属する各部を通読することで問題の立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている思想家の原典（上記参考図書）に触れることによって、課題を深く理解することが望ましい。
レポート課題 1	テキストの第2部から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 図書館、新聞や雑誌、テレビ・ラジオやネット等でその問題を自ら調べ、批判的に考察することが望ましい。
レポート課題 2	テキストの第2部から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい（ただし課題1と異なるもの）。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 図書館、新聞や雑誌、テレビ・ラジオやネット等でその問題を自ら調べ、批判的に考察することが望ましい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（生の哲学から実存主義の流れ）
第 4 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（現象学と解釈学）
第 5 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（プラグマテズムとホワイトヘッドの哲学）
第 6 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（ウィトゲンシュタインと構造主義）
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	近現代の社会思想の歴史的推移とその諸問題に関する哲学的考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；ロールズの正義論
第 4 回	基本教材 2 の学修；医療、ビジネス、環境の倫理
第 5 回	基本教材 2 の学修；ジェンダー問題と心の科学、現代の技術論
第 6 回	上記の考察を踏まえて、今日最も重要と思う社会問題についての学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する社会上の諸問題についての哲学的観点からの考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証